

鴨東通信

おうとうしん

ていーたいむ

鎌倉時代研究の過去・現在・未来
上横手雅敬

■私のノートから■

武術と武士道
アレキサンダー・ベネット

特別寄稿

中野美術史学とはなにか
加須屋誠

■源氏物語千年紀・古典再生に向けて〈第五回〉■

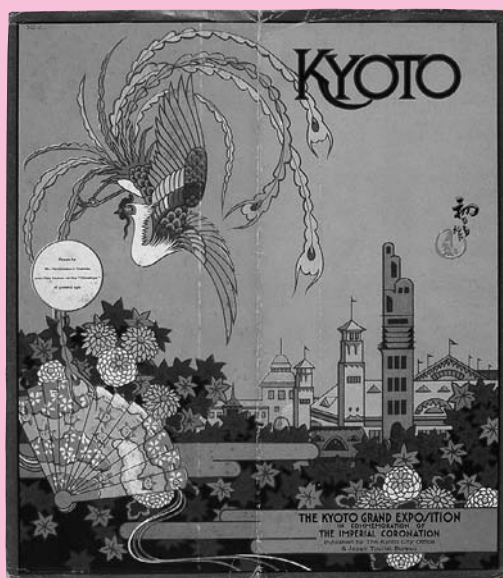
国宝「源氏物語絵巻」の模写
四辻秀紀

史料探訪③④

『源氏物語団扇画帖』と
与謝野晶子の源氏訳自筆原稿ウェブ公開
伊藤鉄也

■人文学の最前線■

大手前大学史学研究所
オープン・リサーチ・センター
魚津知克



秋

◎新刊案内◎

鎌倉時代の権力と制度
増補・改訂 南北朝期公武関係史の研究
棟札の研究(復刊)
博伝の来た道
正倉院宝物に学ぶ
武士のエトスとその歩み
徳川將軍家領知宛行制の研究
吉田清成関係文書 書簡篇 4
尾陽 4号
源氏物語千年のかがやき
医譚(昭和13年~19年)

室町期東国社会と寺社造営
東寺百合文書(六)
翁の生成
文学のなかの考古学
正倉院展60年のあゆみ(仮)
俳句とジャポニスム
条約改正交渉史
続々日本仏教美術史研究
平成新修古筆資料集 第四集
日名子実三の世界
江戸期文化人の死因

鎌倉時代研究の過去・現在・未来

——『鎌倉時代の権力と制度』刊行によせて——

上横手雅敬（京都大学名誉教授）

研究を始めた頃

鎌倉時代というのは、京都が中心の時代でないということと大いに関係があると思うのですが、伝統的に京都の研究者が苦手としている時代じゃないかと思うんです。私が京都大学を卒業した1953年頃は、鎌倉時代の政治史や法制史を教わる先輩なんか誰もいなかったわけです。強いていうと牧健二先生ですが、当時60歳を超えておられた大先輩です。

特に政治史や法制史が、これまた京都に合わない。やはり、日本の政治の中心であって官僚の本場である東京を中心として出てきた学問です。京都では、社会経済史や文化史が盛んでしたので、私は不自由しましたね。ただ、私は先生のやっておられることをやるというよりも、やっていないことをやりたいと思う方で、拘束されるのが嫌なのです。それがかえって好都合だったかもしれません。

若手研究者とともに研究会を発足

それから今日まで半世紀たっていますが、京都の事情は変わっていないように思います。もとはといえば平安時代研究は、全国的に申しまして、鎌倉時代研究より遅れて出発した分野です。制度のきちっとしている奈良時代と鎌倉時代から研究が進んでいって、その間のどっちともつかないような時代ということで出発が遅れたのです。われわれが卒業したころ、平安時代について読まなければならない本は少なかった。

その後、『平安遺文』が順次刊行されて研究が進んでいきました。最初は社会経済史・荘園史が発展し、最近では政治史を中心に著しい進歩を遂げています。とくに関西では元木泰雄、高橋昌明、野口実、美川圭氏と多士済々で、非常に盛んです。またそういう人の教えを受けた若い人が伸びてきていますが、鎌倉時代は相変わらず人材に乏しい。



その中で、熊谷隆之君、木村英一君、宮本晋平君あたりの論文が目にとまって、面白いと思ったんです。そういった新しい芽も出てきているし、ここで呼びかけたら何とかなるんじゃないかなという気を起こしたわけです。彼らにはこちらから手紙で鎌倉時代研究会発会の趣旨を説明し、参加を呼びかけました。するとそれに応じてくれました。龍谷大学時代に指導していた学生諸君も加わってくれました。また、京都大学で元木泰雄さんの指導を受けていた方々の一部も加わり、それ以外に参加を希望してきた人々もいて、結局十余名のメンバーが集まりました。ただ、その上の世代というのは想定していませんでした。今でも入ってもらう適当な方がいません。

大学で、院生などを集めて研究会をやってきましたが、飽いてきました。やはりよその人にお目にかかりたいと思って、いままで自分で呼びかけたりしたことなどないのですが、珍しく動いて始めたのがこの鎌倉時代研究会なんです。

会はオープンにされていて、会員の紹介で新メンバーが参加してきます。ただし、会場に行ったら見たことがない人が座っていて、いきなり「やあこんにちは」ってのはやめてくれといっていますが。人

数はもう少し増やしたいと思っています。研究報告のテーマは自由です。ただ、(本書巻末の)例会の記録をみたらわかるように、みんな苦勞して、面白い報告をしています。

研究会では一年に一回程度報告してもらっています。最初に佐伯智広君が「こんなに鎌倉時代の人が集まったのは初めてで緊張する」といっていました。だから深いところで議論できるんですよ。

問題は少しあって、鎌倉時代プロパーではない人がかなり混じっています。たとえば、元木さんに習って、平安時代を専門にしていた人が、僕の研究会に入って、少し手を伸ばして鎌倉時代をやっている。吉田賢司君などはもともと室町時代を研究していた。無理やりですが、ちょっとの無理でやれるのなら、知識が広がりますし、それはいいことだと思います。もともと不振な京都で作った研究会ですから、プロパーの人は少ないはずなんです。それを盛んにしようと思ってやっているわけだから、仕方ないですね。

私の主義ですが、会としての統一した方針とかは考えずに、各自の研究の中にそれぞれ生かしていったらいいと思います。でも私を含めてみんな苦しいですよ、研究報告の順番が回ってきますから。(笑)

京都の学風、今昔

わたしの編集で論文集を出すのは3回目です。京都大学を退官するときに『古代・中世の政治と文化』(思文閣出版、1994年)を、それから古稀記念の『中世公武権力の構造と展開』と『中世の寺社と信仰』(ともに吉川弘文館、2001年)を作っていただきました。しかしこれらは編集の実務は他の方にやっていただき、私は名前だけです。今度は本当に自分で編集しました。今回の本は執筆者が一番若く、最前線の研究者たちの精魂込めた研究だといえます。内容的にもきわめて充実していて、鎌倉時代の研究をこれほど幅広くとりそろえた論文集は珍しいのではないのでしょうか。

研究会で本を出す意義は、あくまで個人のプラスになる点にあると思います。学会に裨益する云々というのは結果論です。そんなえらそうな考えで出発するなんておかしいと思います。ただ、京都の鎌倉時代研究をもうちょっと活性化したいという思いがありました。私にしては珍しいことです。

執筆者はそれぞれに指導教授がおられて、それぞ

れの研究をやってこられている。だから平安時代をやってきた人に、「君、鎌倉時代に変わりたまえ」なんてことは簡単にいえない。それはやっぱりひきずって来ているものがあるわけですね。これも京都の実情を表しているのですが、本書の内容を見ても、幕府研究が少なくて公家部門が非常に多い。京都の学風まで変えることは結局できないわけです。

僕の研究のスタートの時点では、鎌倉幕府研究が特に関東の研究者の間で主流でした。ところが、それ以後状況が変わってきたんですね。権門体制論が出てくると、鎌倉幕府は脇でいいじゃないかという流れになってきました。

私はある時期に、いままでの鎌倉時代の研究は鎌倉時代史じゃなくて、鎌倉幕府史である。鎌倉幕府とは何かというと、組織暴力団源組と北条組の歴史じゃないか。それをもって日本の歴史と称しておるなどといってきました。それは効果があったのですが、今度は逆に鎌倉幕府史が手薄になってきた。中世の公家なんて昔はやる人がいなかったのですが。

それでも本書は、一応バランスはとれているのではないのでしょうか。それぞれの点で、最先端をいくものができていると思います。公家・幕府・寺社の三部構成では、まるで権門体制論ですが、ああなってしまうのです。(笑)

鎌倉時代研究の将来を見すえて

今後も研究会は今まで通り続けます。もう一回こういう本を出せたらそれに越したことはないですが、それはこの本の成績次第です。

入会したい人には入っていただきたいですね。実はアルバイトなどの関係で、報告の日がとりにくく、出席できない方もあって困っているのです。入会希望の方は、メンバーの誰かに相談してみてください。ただ、この会は高いモラルで運営しています。メンバーの自主性、自覚が必要です。業績面でも、人間面でもそういえると思います。

今は私がこの研究会のいわばリーダーの立場です。この体制をもう少しづけて、次第に運営を若い人に任せられたらよいと思っています。この研究会のメンバーにはこれからの鎌倉時代研究を担ってほしい。そうするとやはり第二、第三の本を出したいですね。ただ私の責任編集という方式は、今後少し苦しいと思います。(2008.8.8 於：思文閣出版)

うわよこ て まさたか
上横手雅敬編

鎌倉時代の権力と制度

最新刊

鎌倉時代史をリードしてきた編者と、次世代を担う関西の若手研究者により結成された鎌倉時代研究会の初の論文集。各分野のスペシャリストがそれぞれの視点から最新の研究成果を披露する。

第1篇 公家政権

中世貴族社会における家格の成立

佐伯智広

女院制の展開と執事

樋口健太郎

後鳥羽院政期の在京武士と院権力—西面再考—

長村祥知

鎌倉時代初期における朝廷の貨幣政策

伊藤啓介

鎌倉時代の国守について

宮本晋平

第2篇 鎌倉幕府

御教書・奉書・書下—鎌倉幕府における様式と呼称—

熊谷隆之

鎌倉幕府における正月行事の成立と発展

滑川敦子

建武政権の御家人制「廃止」

吉田賢司

第3篇 宗教と寺社

「建永の法難」について

上横手雅敬

鎌倉後期の禅宗と文芸活動の展開

芳澤 元

後醍醐天皇の寺社重宝蒐集について

坂口太郎

鎌倉後期多武峯小考

木村英一

—『勘仲記』裏文書にみえる一相論から—

▶A5判・360頁／定価6,825円

ISBN978-4-7842-1432-7

増補・改訂 南北朝期公武関係史の研究

森茂曉著

最新刊

南北朝期の公家政局の構造、および朝廷と幕府との関係を、豊富な史料に基づいて実証的に読み解き、その後の中世政治史の発展を決定づけた名著（1984年、文献出版刊行）を増補・改訂して復刊。増補にあたっては、32頁に及ぶ新補注を付し、旧版刊行後に見いだされた基礎データ等を収録。

内容

南北朝成立前史／建武政権／北朝の政務運営

／北朝と室町幕府

もり・しげあき…1949年生。福岡大学人文学部教授。文学博士。

▶A5判・606頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1416-7

★歴史書懇話会秋の共同復刊事業★ 歴懇リバイバル2008

むなふだ

棟札の研究

水藤真著

寺院の殿堂や神社などの上棟式・大修理・屋根替のさいに、建物名・願主・工匠名・上棟年月日などを記して棟木に打ち付けた板を棟札という。本書は、国立歴史民俗博物館が行った棟札調査報告書をもとに、定義・概要・書式の考察から棟札の意味・価値など多方面から検討を加え、研究の整理と方向性を示す。

〔10月復刊〕

内容

棟札の考察／棟札の検討／棟札の意味／

棟札の価値／棟札の資料化

すいとう・まこと…1945年生。東京女子大学文理学部教授。文学博士。

▶A5判・220頁／定価3,990円 ISBN4-7842-1243-4

小森正明著 室町期東国社会と寺社造営

【思文閣史学叢書】 最新刊

寺社の造営事業は、寺社を中心とする経済活動——寺社領経済——の発展に大きな効果をもたらす。本書は鎌倉府体制下にあった室町期の東国において、寺社造営事業と寺社領経済が東国社会に与えた影響を考察する。「香取文書」など中世東国の「売券」の長年にわたる分析に基づく成果。

〔内容〕

1 寺社造営の推進主体と鎌倉府

鎌倉府の成立と寺社政策／造営における神官・僧侶の役割／門徒集団の役割と造営／造営の組織と工匠集団

2 寺社造営の経済的基盤と鎌倉府

寺社造営の隆盛と鎌倉府／鎌倉府と造営基盤／富有人注文の創出／経済関の設置と造営事業

3 寺社領における有徳人と売買・貸借

寺社領における有徳人の形成と経済／寺社領における売券／常陸惣社と神官の売買／寺社領における借用状の一形態

4 寺社領経済と蔵本の活動

寺領年貢の輸送と蔵本／寺社領における蔵本と商業／蔵本の展開とその活動／長者伝説と蔵本

▶A5判・356頁／定価7,350円

ISBN978-4-7842-1421-1

室町・戦国期研究を読みなおす

中世後期研究会編

〔好評2刷〕

踏まえる、拓く——若手研究者が提示する研究の過去・現在・未来

〔内容〕

政治史を読みなおす／社会史を読みなおす／経済史を読みなおす／宗教史を読みなおす

▶A5判・408頁／定価4,830円 ISBN978-4-7842-1371-9

東寺百合文書 六 ハ函三・ニ函一

京都府立総合資料館編

〔10月刊〕

東寺百合文書とは、東寺に襲蔵されてきた、奈良時代から江戸時代初期まで約九百年にわたる、総数1万8千点・2万7千通におよぶ日本最大の古文書群である（平成9年国宝に指定）。本史料集には「ひらかな之部」刊行中の『大日本古文書』未収録の「カタカナ之部」を翻刻。

▶A5判・452頁／定価9,975円 ISBN978-4-7842-1435-8

金賢旭著

おきな

翁の生成

【10月刊】

——渡来文化と中世の神々——

中世の翁信仰の生成過程を諸縁起や史料から読みとることで、そこに色濃く反映された韓半島からの渡来文化の姿を見いだし、さらに日本芸能のルーツである翁猿楽の成立についても、韓半島のシャーマニズム文化の影響を指摘する。

日本の基層文化の形成を韓半島の文化との交渉の中から根本的に考え直すことにより、日本と韓半島との文化交流の、中世における新たな相貌を浮かび上がらせる意欲作。

【内容目次】

第一章 古代の翁

塩土老翁／椎根津彦／伝承を語る翁

第二章 住吉信仰圏の翁

住吉明神の示現／翁としての住吉明神／住吉明神と赤山明神／金春禪竹の『明宿集』と住吉明神

第三章 中世の翁

地主神と翁／道祖神と翁

第四章 秦氏集団の信仰と翁の生成

秦氏にかかわる信仰と翁／渡来の翁神

第五章 韓半島の山岳信仰の流入

役小角と韓半島の山岳信仰／新羅の花郎文化と彦山修験

第六章 翁と童子——韓日比較文化論——

翁と童子の交流／脱解・処容伝説と秦河勝伝説の近似性

第七章 道教的呪術文化の受容と排除

幻術とそのルーツ／幻術の日本伝来と展開／排除される道教文化

きむ・ひょうく…東京大学大学院総合文化研究科修了(学術博士)。韓国国民大学日本学研究所研究員。

▶A5判・280頁／定価5,250円

ISBN978-4-7842-1411-2

石山寺の信仰と歴史

鷲尾遍隆監修／綾村宏編

琵琶湖畔の石山寺は、古くから観音信仰の聖地であり、また、紫式部が源氏物語の着想を得たという伝説が残るなど、多くの人たちによってその信仰と文化が育み守られてきた名刹である。

石山寺の信仰・歴史・美術・文学・経典を、第一線の研究者が、豊富なカラー図版とともに解説。オールカラー、図版150点。

▶A5判・180頁／定価1,890円

【内容目次】

序	(鷲尾遍隆)
観音信仰と巡礼の寺	(頼富本宏)
創建とあゆみ	(綾村宏)
仏像と絵画の荘厳	(宮本忠雄)
伽藍のすがた	(山岸常人)
紫式部と『源氏物語』	(奥田勲)
聖教の伝承	(沼本克明)



ISBN978-4-7842-1387-0

日本古代の伝承と歴史

渡里恒信著

『続日本紀研究』などに掲載されてきた諸論考をまとめる。大化前代における王権と氏族の諸様相を『古事記』と『日本書紀』などの伝承史料から解き明かした論考を第1・2篇に収録し、第3篇では平安初期の特徴的な君臣関係をテーマとして取り扱う。

▶A5判・372頁／定価6,300円 ISBN978-4-7842-1403-7

日中親族構造の比較研究

官文娜著

近代以降、日本が果たした西洋異文化(近代文化)との融合が、なぜ中国では不可能であったのか。本書では、日中親族集団の構造を手がかりに、日本が中国の親族文化、特に宗族制度を受容しなかった理由、またともに「アジア文化圏」に属する両国の、西洋異文化との衝突の原因と融合の条件を探る。

▶A5判・440頁／定価7,560円

ISBN4-7842-1241-8

平安期の願文と仏教的世界観

工藤美和子著

佛教大学研究叢書 2

仏に願意を述べる文章である願文について、それ自体が何を語ろうとしているのか分析し、人々の仏教理解や具体的信仰のあり方、社会集団内部でそれぞれの構成員が果たした公共的役割、寺院や僧侶と世俗社会との関わり方、具体的な宗教的実践のあり方を明らかにする。

▶A5判・366頁／定価6,825円 ISBN978-4-7842-1393-1

散所・声聞師・舞々の研究

世界人権問題研究センター編

世界人権問題研究センターでの9年間の共同研究の成果をまとめた一書。散所の人々が携わった芸能や陰陽道との関わりを含めて綿密な分析を試み、洛中・山城国・近江国における実態を浮き彫りにする。研究ツールとしての年表・文献目録・基本史料を収録、古代・中世社会の研究にとって欠くことのできない基本文献。

▶A5判・590頁／定価8,610円

ISBN4-7842-1219-1

道たの来の傳

白鳳期仏教受容の様相

後藤宗俊著

11月上旬刊

傳仏は粘土でつくられた小さな仏像である。本書は、インドから長安・飛鳥を経て大分県宇佐の虚空蔵寺にいたる「傳仏の来た道」をたどり、そこにこめられた折りの諸相を明らかにする。あわせてその途上に浮かび上がる玄奘・道昭・法蓮などの偉大な僧の信仰と人間像に迫る。



傳仏(宇佐市教育委員会蔵)

◎内容目次◎

- 第1章 長安の傳仏と三蔵法師玄奘
 - 第2章 白鳳期の仏教受容と傳仏
 - 第3章 傳仏の寺・宇佐虚空蔵寺跡の考古学
 - 第4章 豊前の僧法蓮—その人と仏教—
 - 第5章 僧法蓮と宇佐の古代寺院
 - 付 章 求法の旅人たち
- ごとう・むねとし…別府大学文学部教授

▶A5判・320頁／定価5,985円 ISBN978-4-7842-1433-4

経筒が語る中世の世界

別府大学文化財研究所企画シリーズ

小田富士雄・平尾良光・飯沼賢司編

朝日新聞 6月21日文化欄の
記事になりました!

“鎌倉の大仏様「素材は中国銭」
別府大グループが解明”

◎内容目次◎

I 経筒が語るヒトの交流の世界

銭は銅材料となるのか／材料が語る中世／九州出土経筒の鉛同位体比が語るもの／経筒の制作と地域性／埋経と仏像／経塚勧進僧の行動と連鎖の軌跡

II 九州地域出土の経筒が語る世界

九州における経塚・経筒研究／肥後における経筒について／熊本県人吉・球磨地方における経筒について／肥前佐賀の経塚／大宰府における経塚経営とその背景／筑後の経塚と経筒／福岡県みやこ町出土の経筒鋳型／福岡県みやこ町勝山松田出土の経筒／大分県宇佐市妙楽寺出土経筒

▶B5判・236頁／定価5,040円 ISBN978-4-7842-1409-9

文学のなかの考古学

最新刊

佛教大学鷹陵文化叢書19

門田誠一著

考古学の分野を研究する著者が、小説や古典芸能などに描写された考古学的要素や、それらの背景となった歴史的あるいは文化的な背景について、考古学的に接近を試みる。小説や随筆、詩、俳句、川柳、そして古典のようないわゆる文学だけでなく、古典芸能や民話、民謡なども広義の文学として取り扱い、文学と考古学の間に生まれる新たな可能性を提示する。図版多数。



◎内容目次◎

I ものどころ 史的世界としての民話と民謡／『風土記』『万葉集』の生活と習俗／『枕中記』『古鏡記』の物と人／考古学から読む『おもしろそうし』／漢詩のなかの信仰と技術

II いきものとひと 国木田独歩「鹿狩」に歴史を読む／芥川龍之介作品のなかの考古学／犬と猿と考古学／文学と考古学にみる鯨／俳句と川柳の遺跡と遺物／北の大地の考古学的風景

III くらしとくふう 菱と栗の文芸と生活史／『鉢かづき』と『山椒大夫』の考古学背景／狂言と能の考古学の世界／西鶴作品にみる江戸時代のくらしと地域観／『東海道中膝栗毛』の生活誌／災害と記録と考古学と

もんた・せいいち…佛教大学文学部教授

▶四六判・300頁／定価2,415円 ISBN978-4-7842-1430-3

王権と都市

今谷明編

国際日本文化研究センターで、編者が組織した共同研究「王権と都市に関する比較的研究」の成果。日本、アジア・イスラーム、ヨーロッパの3領域から11篇の論文を収め、「都市とは何か」という命題の解明に挑んだ一書。

▶A5判・372頁／定価7,140円 ISBN978-4-7842-1396-2

蓬萊山と扶桑樹

日本文化の
古層の探究

岡本健一著

中国伝来の神仙思想のうち、不老長生の仙境「蓬萊山」のイメージと、生命更新の仙木「扶桑樹」のシンボルが、日本の古代文化におよぼした影響の諸相を、歴史考古学的に明らかにする。

20年前より「前方後円墳＝蓬萊山起源」説を提唱してきた、元新聞記者でもある著者の研究集大成。



▶A5判・442頁／定価5,775円 ISBN978-4-7842-1400-6

大地へのまなざし

金田章裕著

歴史地理学の散歩道

古代日本の条里制から世界地図まで、歴史地理学のおもしろさを紹介するとともに、グローバルな研究を展開してきた著者が折りに触れて書き継いできた諸論稿をまとめる。

▶A5判・316頁／定価4,725円 ISBN978-4-7842-1405-1

正倉院宝物に学ぶ

—正倉院学術シンポジウムの記録—

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、美術史・仏教・建築・歴史の第一線の研究者による3回のシンポジウムの成果。

【内容目次】

※執筆者の肩書は2008年8月31日現在

正倉院と奈良朝絵画……………梶谷亮治・東大寺総合文化センター
設立準備室長

第Ⅰ部 正倉院学術シンポジウム「正倉院研究の現在」2005年

正倉院文書研究の来し方……………北 啓太・宮内庁京都事務所長
北倉の楽器……………内藤 栄・奈良国立博物館工芸考古室長
黄銅合子の模造で得た新知見—正倉院宝物模造の意義—……………西川明彦・宮内庁正倉院事務所整理室長
正倉院事務所における近年の調査……………杉本一樹・宮内庁正倉院事務所長
弘化四年東大寺宝物記録に見る正倉院宝物について……………森本公誠・東大寺長老
全体討論

第Ⅱ部 正倉院学術シンポジウム2006「正倉院宝物と8世紀東アジアの文化」

正倉院宝物と大仏開眼会—宝庫の成立に関連して—……………米田雄介・元宮内庁正倉院事務所長
正倉院宝物から見た唐代の日中文化交流……………晏 新志・陝西歴史博物館研究員（中国）
統一新羅と奈良時代の仏像……………金 理那・弘益大学校教授（韓国）
聖武天皇—その出家への道—……………森本公誠
正倉院宝物と鑑真和上……………三宅久雄・奈良大学教授
国家珍宝帳について……………杉本一樹
奈良国立博物館蔵刺繍釈迦說法図の主題と画像……………稲本泰生・奈良国立博物館企画室長
菩提僊那と古密教の美術……………谷口耕生・奈良国立博物館研究員
全体討論

第Ⅲ部 正倉院学術シンポジウム2007「守る・伝える 正倉院宝物」

漆工品の修理と模造……………北村昭彦・重要無形文化財「螺鈿」保持者
正倉院宝物を守ってきた人々……………木村法光・奈良国立博物館客員研究員
正倉院の建築と機能……………清水真一・東京文化財研究所
文化遺産国際協力センター長
近年の染織宝物の整理・修理……………田中陽子・宮内庁正倉院事務所整理室技官
正倉院宝物の科学調査の成果……………成瀬正和・正倉院事務所保存科学室長
全体討論
[コラム] 4本……………戸田 聡・読売新聞大阪本社記者

▶四六判・360頁／定価3,150円

10月下旬刊

ISBN978-4-7842-1439-6

正倉院展60年のあゆみ(仮)

奈良国立博物館編集・発行
思文閣出版発売

10月下旬刊

奈良時代・天平文化のきらめきを今に伝え、“シルクロードの終着点”とも呼ばれる正倉院には、約9,000件の宝物が納められている。終戦後すぐの昭和21年に奈良帝室博物館で第1回正倉院展が開始されて以来、今年で60回を数え、秋の風物詩となっている正倉院展の歩みを、各回の主な出陳宝物の図版や特徴・エピソード・出陳一覧などのデータと、各分野の研究者によるエッセイでたどり、毎回の図録に付されている用語解説を整理・集大成して巻末に付す。

▶A4判・288頁／定価3,150円

ISBN978-4-7842-1440-2

■ INFORMATION ■

第60回正倉院展 2008年10月25日(土)～11月10日(月)

奈良国立博物館 TEL0742-22-7771 <http://www.narahaku.go.jp>

武術と武士道

アレキサンダー・ベネット

武士道という言葉に興味を持ち始めてから、はや二〇年。決して意図したことではなかったが、日本の高校に留学し、入部した剣道部で心身を練磨する厳しい武道の世界に入り込んでしまったことがすべての始まりである。そこで初めて武士の歴史と文化をより専門的に知りたいという思いが生じ、現在に至る。

当時、武士の世界の参考書としてすぐ手に入る吉川英治著『宮本武蔵』の英訳や新渡戸稲造が英語で書いた『武士道』を何度も読み返し、武士のロマンを味わっていたが、どうしても頭から消えない疑問があった。小説や映画などで一般的に描かれている超人間的な武士のイメージが「作られた伝統」で、現実的なものではないのではないか——つまり、武士の理想像よりも人間としての実像を知りたかったのである。

私が修行している剣道を参考にしながら幾多の謎と矛盾を解き明かそうとして、京都大学で著した博士論文がその結果である。というよりも、この研究の第一歩という言い方のほうが正確であろう。武士のエトスと現代的な競技スポーツに近い剣道のつながりは、希薄であることを認めざるを得ない。しか

し、全く関係ないとも言切れない。例えば、剣道では、「捨て身で相手を切る」「竹刀は刀のつもりで使え」というように、命を掛けて一本一本を打ち切ることが重要だと常に教えられる。

武士の真剣勝負から生まれた教訓がいまでも剣道の指導内容の理想的な中心概念として残る一方、ほとんどの武士道論を審察すると、武士と「死」は深く分析されるにもかかわらず、意外に武術とその訓練が武士気質に果たした具体的な役割について詳しく検討している研究は少ない。武士道と武術の関連性をテーマとして取り扱っていても、その多くは表面的な研究に過ぎないといっても過言ではない。

このような問題を認識しながら、社会・文化人類学者であるクリフォード・ギアツの宗教定義を骨組みとして利用し、武士文化の象徴的な要素と自己認識を再考察し、武士道に対する新たな社会学的な発想を試みた。なぜ宗教なのか——戦や決闘で「生きるか死ぬか」という場面において、武士にどのような恐怖感・法悦感が湧いてきたかを考えると、それらの感情こそが何らかの宗教的体験といえるのではないかと思ったからである。特に、媒介物として武士の「名誉文化」の重要なシンボルであった武の能

力。武術は、武士のレゾンデートルにどのような影響を与えたのかを考察し、稽古の中で「死の場面を演じる」ことで独特な存在意識が生まれると推測した。生きるか死ぬかという強烈な中世の世界から、天下泰平の江戸時代にも武士の「順応」とともに武術の更なる進化が見られ、人を殺す技術から生かす「道」に「文明化」されていった。荘厳な修行過程は、武士としての優越感と存在意識を育成させたに違いない。

そして、ついに武士の独特な優越感が、明治時代の秩禄処分以降に生じたナショナリズムという形で、近代日本国民の潜在意識として移り変わっていったのである。そのプロセスを分析することによって、明治後期から流行りだした武士道論と現代人の「武士道」に対する誤解や偏見を理解することができるのである。



Alexander Bennett

1970年ニュージーランド生まれ。カンタベリー大学修士課程修了。京都大学博士（人間・環境学）。大阪体育大学他非常勤講師。全日本剣道連盟参与。

武士のエトスとその歩み 武士道の社会学的考察

アレキサンダー・ベネット著

武家政権の誕生から、明治維新に伴う身分制度の廃止に至るまでの、武士文化の発展と変遷の過程を考察。文化人類学者のクリフォード・ギアツによる宗教の定義を援用し、各時代における武士の精神を精査することによって、武士の気風や動機などが、どのように進展していったか、その過程を明らかにする。

【内容目次】

- 第1章 武士エトスの系譜
- 第2章 象徴の体系
- 第3章 武士の「気風」と「動機」
- 第4章 武士の一般的な秩序
- 第5章 武術を通じての武士の宗教的な体験
- 第6章 武士身分の解体と武士文化の活用
- 第7章 国民武士道の創造
—「サムライ魂」の再発見

▶A5判・300頁／定価5,040円

【10月刊】

ISBN978-4-7842-1426-6

俳句とジャポニスム メキシコ詩人タブラーダの場合

太田靖子著

日本から遠く離れた国メキシコに、90年前にスペイン語でハイクを書いていた詩人がいた。彼の名はホセ・ファン・タブラーダ。彼がいかにして日本の俳句を知り、ハイクを創作するに至ったかを明らかにし、日本の俳句の本質へ如何に接近したかについて、その評価を試みる。

【内容目次】

タブラーダの資質と俳句との関係／日本趣味の詩／スペイン語初のハイク集『ある一日…』／タブラーダ第二ハイク集『花壺』／タブラーダ・ハイクの特徴と意義 ほか

おた・せいこ…京都外国語大学大学院修士課程修了、京都外国語大学講師。

▶A5判・324頁／定価6,090円

【最新刊】

ISBN978-4-7842-1404-4



西洋化の構造

黒船・武士・国家

園田英弘著

「蒸気船の時代」から始まった日本の近代化の特質と諸相を明かし、従来の近代化論に一石を投じる。

【内容】「極東」の終焉 黒船前史／蒸気船ショックの構造／海防の世界／郡県制の武士 ほか

▶A5判・380頁／定価7,875円

ISBN4-7842-0801-1

近世儒者の思想挑戦

本山幸彦著

林羅山・熊沢蕃山・貝原益軒・荻生徂徠・松平定信・佐久間象山・横井小楠……絶対的な道德理念のもと、相対的な法を果敢に変革していった近世の思想家たち。彼らが取り組んだ課題を再考察する。

▶A5判・314頁／定価7,875円

ISBN4-7842-1304-X

森有礼における国民的主体の創出

長谷川精一著

森有礼の言説や政策の目的が、日本国民の主体の創出にあったという視点から、先行研究の大半が十分に検討しなかった外国語の史料や文献をも利用し、さまざまな角度から検討を加えた画期的な一書。

▶A5判・466頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1367-2

明治前期の教育・教化・仏教

谷川穰著

明治前期を中心に、従来の日本近代史、仏教史、宗教史、教育史といった諸分野がとりこぼしてきた問題の重層性・複雑性を、教化・宗教（仏教）との関係から浮き彫りにする。

▶A5判・372頁／定価6,090円

ISBN978-4-7842-1386-3

「封建」・「郡県」再考

東アジア社会体制論の深層

張翔・園田英弘編

東アジアの社会体制（あるいは統治機構）を表す「封建」と「郡県」という伝統の概念を多角的に検討し、その論理的枠組や時代的要請による理論的発展の構造を解明しようとする13篇。

▶A5判・412頁／定価6,825円

ISBN4-7842-1310-4

明治維新史という冒険

佛教大学鷹陵文化叢書 18

青山忠正著

平易な文体と豊富な図版・地図で明治維新史の魅力を紹介すると共に、「幕末」「明治維新」認識を対象化し、日本固有の「近代」というパラダイムを捉え直す。

▶四六判・332頁／定価2,520円 ISBN978-4-7842-1394-8

増補 郷土教育運動の研究

伊藤純郎著

長らく品切れだった旧版に1章を加えて再版。1930年代に展開された郷土教育運動の歴史的意義を、柳田国男の郷土研究論と関連させながら、文部省や郷土教育連盟、地域社会の反応を通じて、実証的に解明する。

▶A5判・504頁／定価10,290円 ISBN978-4-7842-1402-0

三高の見果てぬ夢

巖平著

中等・高等教育成立過程と折田彦市

明治前期（1880～1890年代）における中等・高等教育の成立過程を、長く三高校長職にあった折田彦市に着目し、第三高等中学校およびその前身校の変遷に即して明らかにする。

▶A5判・350頁／定価7,875円

ISBN978-4-7842-1399-3

徳川将軍家領知宛行制の研究

藤井讓治著

【思文閣史学叢書】 最新刊

徳川将軍家と大名との関係を成立させる領知制。本書はその領知制を基礎のところで成立させている領知朱印状そのものに注目し、徳川将軍家の領知宛行制の形成過程とその特質を明らかにする。また、各章末に領知朱印状の一覧表を、巻末に人名索引を付す。

家康期の領知宛行制 徳川将軍家の領知朱印状／関ヶ原直後の領知宛行制／関ヶ原戦後処理後の領知朱印状

秀忠親政期の領知宛行制 領知朱印状の残存状況／元和三年の領知朱印状発給の特徴／領知朱印状の様式／領知朱印状の発給経緯

秀忠大御所時代の領知宛行制 領知朱印状の発給者／寛永二年の領知朱印状発給の特徴／領知朱印状の文書様式

寛永十一年の領知朱印改め 寛永十一年の領知朱印改めの経緯／寛永十一年の領知朱印状／寛永十一年領知朱印状の文書様式

寛文四年の領知朱印改め 寛文領知朱印改めの実施過程／領知朱印状の発給

徳川将軍領知朱印状の古文書学的位置 研究史と分析の前提／室町将軍御判御教書と徳川将軍領知朱印状の比較

領知朱印改め以外の領知朱印状発給 領知朱印改め以外の領知朱印状／家綱期の領知朱印状／綱吉期の領知朱印状／家宣期の領知朱印状／吉宗期以降の領知朱印状

▶ A5判・412頁／定価7,875円

ISBN978-4-7842-1431-0

畿内の豪農経営と地域社会

渡辺尚志編

18世紀末以降、河内国丹南郡岡村（現藤井寺市）の庄屋を世襲した豪農・地方名望家、岡田家。近世・近代において同家が作成・授受した「岡田家文書」は、1万数千点にもおよび、近年整理が進められている。この岡田家文書を多角的に分析し、畿内における村落と豪農の特質を経済・社会構造の観点から解明する。

▶ A5判・508頁／定価8,190円

ISBN978-4-7842-1385-6



近世御用絵師の史的研究

幕藩制社会における絵師の身分と序列

武田庸二郎・江口恒明・鎌田純子編

これまで概念規定も曖昧なまま使用されてきた用語、「御用絵師」を、禁裏御用、幕府御用、諸藩御用などの公的事業に携わるすべての絵師と規定し、彼らの全国的官位官職制度の中での位置づけ、為政者による編成・掌握のあり方、絵師たちの自家繁栄のための身の処し方を論じる。

▶ A5判・458頁／定価7,875円

ISBN978-4-7842-1392-4



近世寺社参詣の研究

原淳一郎著

人はなぜお参りするの——。本書は「寺社参詣」という行動様式そのものを研究対象の根本にすえて、江戸時代に隆盛を迎えたさまざまな寺社参詣の広がりや思想的・文化史的立場から位置づける。

▶ A5判・412頁／定価6,615円 ISBN978-4-7842-1363-4

長崎奉行の研究

鈴木康子著

17世紀後期～18世紀中期の、長崎奉行の職掌や幕府内における位置の変化、長崎奉行が変質してゆく状況を解明。その背景となる幕府の経済政策の推移や、日本側の外国人に対する意識の変化などについても考察を加える。

▶ A5判・420頁／定価6,510円 ISBN978-4-7842-1339-9

近世社会と百姓成立 構造論的研究

渡邊忠司著

【佛教大学研究叢書1】

近世社会において零細な高持百姓の経営の自立と再生産を可能としていた「条件」は何であったのか。領主権力による「成立（なりたち）」の構造を再検証し、百姓の観点から百姓自らが創出した「成立」の条件と構造を解明。

▶ A5判・310頁／定価6,825円 ISBN978-4-7842-1340-5

関ヶ原合戦と近世の国制

笠谷和比古著

関ヶ原合戦が内包していた諸問題の再検証と、合戦後の領地配分にみられる支配の実態などを通して、豊臣と徳川の「二重公儀体制」の実態を明かし、家康の政権構想と近世天皇制との関係を論じる。

▶ A5判・280頁／定価6,090円 ISBN4-7842-1067-9

戦国期関東公方の研究

阿部能久著

【思文閣史学叢書】

関東府の長たる関東公方権力の戦国期～江戸期初頭の諸問題を検討。公方発給文書の様式変化にみる権力構造の実態、寺社勢力との関係、関東公方家の後裔である喜連川家の幕藩体制下の位置などを探る。

▶ A5判・320頁／定価5,985円 ISBN4-7842-1285-X

瀬戸内海地域社会と織田権力

橋詰茂著

【思文閣史学叢書】

在地権力の動向、海賊衆や真宗勢力の台頭、制海権をめぐる抗争など、瀬戸内海・四国をとりまく実態を明かす。[内容] 瀬戸内海社会の形成と展開／瀬戸内海社会の発展と地域権力／地域権力と織田権力の抗争

▶ A5判・396頁／定価7,560円 ISBN978-4-7842-1333-7

大石一男著

条約改正交渉史

【10月上旬刊】

——1887～1894——

1888年（明治21）大隈重信外相による条約改正交渉から、1894年陸奥宗光外相による日英通商航海条約締結までの時期について、①日本側の交渉戦略・交渉戦術、②交渉相手の欧米列国の動向、③日本国内における諸個人・諸集団の協力・対抗・競合の側面という3つの視角から分析。

「条約改正に代表される近代化」と「日清戦争にはじまる対外膨脹」という2つの外交課題の関係、すなわち「対外戦争なしでの近代化は可能であったのか」について新たな見通しを提示する。

《目次》

第1章 大隈交渉の出発

第2章 大隈交渉における「列国協調」と廃棄戦術

第3章 大隈交渉における帰化法の意味

第4章 青木外相期の条約改正問題

第5章 陸奥交渉への道——再編される条約案——

第6章 ポルトガル領事裁判権廃棄事件

第7章 陸奥交渉

おおいし・かずお…京都大学大学院文学研究科博士課程日本史学専修学修認定退学。京都学園大学他非常勤講師。

▶A5判・352頁／定価6,825円

ISBN978-4-7842-1419-8

吉田清成関係文書 全7巻

京都大学文学部日本史研究室編

吉田清成関係文書研究会編集・解説

書簡篇① A5判／定価13,650円 ISBN4-7842-0804-6

書簡篇② A5判／定価13,650円 ISBN4-7842-0925-5

書簡篇③ A5判／定価13,650円 ISBN4-7842-1048-2

【最新刊】書簡篇④

▶A5判・488頁／定価15,750円 ISBN978-4-7842-1428-0

貴族院と立憲政治

内藤一成著

明治～大正前期の貴族院を主導し「官僚系」「山県系」などといわれた院内会派—幸倶楽部—と子爵議員を中心とした最大会派—研究会—の動向を中心に分析。また同時期の内閣・政党の動向を重ね合わせ、近代日本における立憲政治の実態、構造を探究する。

▶A5判・438頁／定価7,980円

ISBN4-7842-1278-7

丸山宏・伊從勉・高木博志編

近代京都研究

【最新刊】

《内容目次》

I 都市 都市改造の自治喪失の起源（伊從勉）／都市計画事業として実施された土地区画整理（中川理）／地価分布からみた近代京都の地域構造（山田誠）／丹後加悦の縮緬産業と近代の町並み（日向進）

II 風景 近代京都と桜の名所（高木博志）／近代における京都の史蹟名勝保存（丸山宏）／「昔の東京」という京都イメージ（藤原学）／御大典記念事業にみる観光振興主体の変遷（工藤泰子）／近代絵馬群へのまなざし（長志珠絵）

▶A5判・600頁／定価9,450円

III 文化 凋落と復興（小野芳朗）／京都の初期博覧会における「古美術」（並木誠士）／近代の茶の湯復興における茶室の安土桃山イメージ（桐浴邦夫）

IV 政治 北垣府政期の東本願寺（谷川穰）／京都府会と都市名望家（原田敬一）／旧彦根藩士西村捨三における〈京都の祝祭〉、そして彦根（鈴木栄樹）

V 学知 阿形精一と『平安通志』（小林丈広）／京都帝大総長及び図書館長批判の顛末（廣庭基介）／田中緑紅の土俗学（黒岩康博）／京大生と「学徒出陣」（西山伸）／京大国史の「民俗学」時代（菊地暁）

ISBN978-4-7842-1413-6

みやこの近代

丸山宏・伊從勉・高木博志編

平安や桃山時代がしばしば話題になる歴史都市・京都は、実は近現代に大きく変わったまちであった——。2年にわたる『京都新聞』の連載をテーマごとに再構成した85篇。

収録図版多数

▶A5判・268頁／定価2,730円 ISBN978-4-7842-1378-8

関西モダニズム再考

竹村民郎・鈴木貞美編

20世紀初頭に生まれた東京とはまったく異質の都市文化圏、「関西都市文化圏」の経済的・社会的・文化的先進性や、地域に根ざした自立的なモダニティの上に花開いた関西モダニズムの諸相をとりあげた14篇。

▶A5判・604頁／定価8,925円 ISBN978-4-7842-1379-5



術／曼荼羅などの密教美術、儀礼の本尊となる礼拝画／絵解きの道具としての説話画、時代的にも古代から中世、近世に至る多種多様な遺品を研究の対象としてまなびます。実に骨太かつスケール大きな学問である。「どうしたら、そうした幅広い視野の研究ができるのですか？」

かつて私は先生にお尋ねしたことがある。先生は笑って答えられた。自分は若い頃、京都府の文化財保護課に勤務していた。その仕事柄、仏像が好きだとか仏画が好きだとか、あるいは何々時代に関心があるとかそれ以外には関心がないだとか、そんな勝手なことは言えなかった。目の前にあるものがよく学び考察すべき対象であったのだ、と。

京都府文化財保護課に続き、中野先生は奈良と京都の国立博物館に勤務。そのうち京都府長岡京市、城陽市、亀岡市、南山城村などの市町村史編纂事業に携わった。こうしたキャリアが中野美術史学の第三の特質を生み出した。すなわち、先生のご研究は美術作品を地理的な枠組み、空間的な文化のつながりにおいて解釈しようとする。たとえば今春発表された論文では、かつて人々は木津川の氾濫を恐れてしばしば薬師悔過を修したこと、それにまつわる仏像が地域に今も豊富に遺ることを、流域市町村が最近相次いで発行した災害時の避難用ハザード・マップを参照しつつ明らかにした（木津川流域の薬師悔過とその仏像）『国華』一三四八号、平成二十年）。空間軸と時間軸を交錯させ仏像制作の背景に迫る、実にダイナミックな研究である。

五十年に及ぶ中野先生の研究成果は、これまで『日本仏教美術史研究』『続日本仏教美術史研究』等にまとめられてきた。そして、この度『続々日本仏教美術史研究』が思文閣出版から刊行される。本書には右に紹介した木津川流域をめぐる仏像の論文が再録。また鳥獣戯画絵仏師筆説や真福寺本『覚禪鈔』『如法尊勝法』覚禪自筆説についての長い間続いた論争に終止符が打たれる。さらに京都市・因幡堂や長岡京市・光明寺などの社寺縁起絵巻については論文に加え、長大な絵巻の全巻の図版が掲載されるのも本書の魅力といえよう。ほかに平成十一年に先生が発見された南山城村・真輪院の両界曼荼羅と星曼荼羅についての書き下ろし論文が収められるのも見逃せない。中野美術史学の集大成といえるべき本である。この三部作を通じて、中野美術史学は二十一世紀の現在あらためて読み返され、そして後世の研究者たちへと確かに受け継がれていくことであろう。

しかも、中野先生のご研究はこれで終わるわけでは決してない。先生と私はすでに次の仕事に着手している。それは、論文集ではなく口語体で語られた一般読者向けの読み物。私が聞き役となり、先生のこれまでの仕事を総括しつつ、仏教美術を学ぶことの課題と方法と魅力とを余すところなく語ってもらおう企画である。中野美術史学の入門書としてそれは構想されている。乞うご期待。（奈良女子大学教授）

最新刊 続々日本仏教美術史研究 中野玄三著

仏教美術史研究三部作の最新刊。50年に及ぶ中野美術史学の集大成。

● 内容 ●

縁起絵篇：縁起絵序説／『八幡縁起』の展開／宇良神社本『浦嶋明神縁起』について／談山神社本『多武峯縁起』について／北野天満宮本『聖廟縁起』について／平等寺本『因幡堂縁起』について／縁起絵と高僧伝絵 ほか
 仏像・仏画篇：木津川流域の薬師悔過とその仏像／観智院本『九曜秘曆』について／真福寺本『覚禪鈔』『如法尊勝法』について／「密教図像と鳥獣戯画」再論／南山城真輪院本「両界曼荼羅」ほか

▶A5判・812頁／定価17,850円 ISBN978-4-7842-1415-0

既刊 続日本仏教美術史研究 日本仏教美術史研究【品切】

▶A5判・500頁／定価11,550円 ISBN4-7842-1269-8

中野美術史学とはなにか

——中野玄三著『続々日本仏教美術史研究』刊行によせて——

加須屋 誠

たとえばイマヌエル・カントの思想をカント哲学、網野善彦氏の歴史研究を網野歴史学と称するように、特定の学問分野において個性的かつ独創的な仕事をした人の名を、敬意を込めてその分野に冠することがある。美術史学において、その名に値する研究者がいるとすれば、それは中野玄三先生にほかならない。すなわち、中野美術史学——その特質は、次の三点にあると私はとらえる。

まず第一に、その根幹にあるのは仏教思想史だ。といっても、それは経論の研究ではない。確かに、経論の記述（儀軌）にしたがって仏像は刻まれ仏画は描かれる。しかし、だからといってその記述さえおさえれば、ただちに仏教美術がわかるというわけではない。飛鳥時代に我が国に仏教が伝来して以降、続く天平・平安・鎌倉時代それぞれの時代の人々が経論をいかに読み、その意味を理解し、その上で信仰に励んだのか、各時代の社会における人と仏教思想との関わりこそが重要である。あるいは、むしろ經典に説かれていない意味を人々は社会生活のなかで仏教に求め、それが仏教美術の創造の原動力となることもある。たとえば高雄・神護寺本尊の薬師如来立像——八世紀後半、称徳天皇の庇護のもと皇位さえも狙った道鏡と、彼の野望を阻止した和氣清麻呂との宇佐八幡の託宣をめぐる攻防は歴史上よく知られている。本像は、道鏡を失脚させたのち、配流の地で恨みを遺して死んだ道鏡の祟りを恐れて和氣清麻呂が祀ったもの。その背景には、本像が作られた天平後期から平安前期への転換期には怨霊の存在が深く信じられていたこと、この頃そうした怨霊を慰撫するために八幡神における放生会や『薬師經』に基づく薬師悔過が積極的になされ神仏習合が促進されたこと、それゆえ仏像一般にみられる慈悲相ではなく、神像に通じるような威圧的な表情をもつ一木像として本像は創作されたことを、中野先生は明らかにした（『悔過の芸術——仏教美術の思想史』法蔵館、昭和五十七年）。

仏教思想史——より正確に言うなら、右に述べたとおり仏教思想の社会受容史——を根幹に据えることで、中野美術史学は彫刻作品（仏像）と絵画作品（仏画）とを分け隔てなく共に研究対象とする視座を獲得した。これが、第二の特質だ。近年は哲学であれ歴史学であれいづれの学問分野も細分化が進み、大きな視野で包括的に研究対象を捉えることが難しくなっている。美術史学も同様、彫刻の研究者／絵画の研究者の区分けは言うに及ばず、○○時代の木彫の専門家、△△宗の絵画の専門家といった具合に、細分化は際限なく進んでいる。そうしたなかにあつて中野先生は彫刻／絵画、涅槃図などの顕教美

東寺宝物の成立過程の研究

新見康子著

豊富な史料をもとに、東寺に残る文化財の伝来過程を具体的に体系化した一書。

▶A5判・口絵4頁、本文634頁／定価12,600円
ISBN978-4-7842-1368-9

南都寺院文書の世界

勝山清次編

東大寺宝珠院と興福寺一乗院坊官二条家に伝来した文書の3年間に渡る調査・研究の成果をまとめた一書。

▶A5判・350頁／定価6,090円
ISBN978-4-7842-1369-6

権者の化現 天神・空也・法然

佛教大学鷹陵文化叢書 15

今堀太逸著

仏・菩薩が衆生を救うためにこの世に現れた、仮の姿について明かす。

▶四六判・312頁／定価2,415円 ISBN4-7842-1321-X

法然絵伝を読む

佛教大学鷹陵文化叢書 12

中井真孝著

法然伝研究の第一人者が描く“絵伝に読む法然像”。

▶四六判・234頁／定価1,890円 ISBN4-7842-1235-3

源氏物語 千年のかがやき

国文学研究資料館編

10月上旬刊

10月4日（土）より行われる国文学研究資料館特別展示の図録。新出の国文学研究資料館蔵『源氏物語団扇画帖』全54枚をカラーで掲載し、詳細な解説を付す。あわせて図様が近似する他の源氏絵についても参考資料として多数掲載。描く・書き写す・鑑賞するという3つの観点から、源氏物語が千年間どのように享受されてきたのか、豊富なカラー図版で紹介する。（16～17頁参照）

【内容目次】

第1部 描かれた名場面

国文学研究資料館蔵『源氏物語団扇画帖』全54図／出光美術館蔵『源氏物語図屏風』ほか源氏絵5点

第2部 どのように書写されたか

国立歴史民俗博物館蔵『中山本 源氏物語』／陽明文庫蔵『源氏物語』ほか源氏物語の写本など14点

第3部 どのように鑑賞されたか

国文学研究資料館蔵『光源氏系図』／鞍馬寺蔵『与謝野晶子訳源氏物語自筆原稿』ほか源氏物語を題材にした作品20点

第4部 世界文学としての『源氏物語』

海外で発刊されている翻訳書など約50点



『源氏物語団扇画帖』（「玉鬘」）

▶A4判・176ページ・オールカラー／定価1,995円

ISBN978-4-7842-1437-2

一千年目の源氏物語

伊井春樹編

シリーズ古典再生①

たんなる古典復興ではなく、源氏物語を現代の眼でもう一度見直して再生することを目指した東京・京都のシンポジウムを集成。次代にその価値を継承する。

【講演・パネラー】大岡信／岡野弘彦／丸谷オー／加賀美幸子／山折哲雄／中井和子／川本重雄／伊井春樹

▶四六判・252頁／定価1,680円 ISBN978-4-7842-1408-2

京都源氏物語地図

（社）紫式部顕彰会編纂

角田文衛監修／加納重文編集責任

千年前の源氏物語の世界を歩くための探訪ガイド。現在の地図に平安京復元条坊を重ね、源氏物語ゆかりの邸宅などを配置。散策に最適なハンディタイプの地図1枚に、案内をかねた小冊子つき。

▶定価840円

ISBN978-4-7842-1372-6

尾 陽

徳川美術館編

徳川美術館論集

最新刊第4号

従来『金鯢叢書』の一部として収録されていた美術関係の部分に新収蔵品紹介や修理報告などを収め別本で刊行

▶第1号 B5判・120頁／定価3,150円 ISBN4-7842-1222-1

第2号 B5判・232頁／定価3,150円 ISBN4-7842-1240-X

第3号 B5判・184頁／定価3,150円 ISBN4-7842-1331-7

第4号 B5判・178頁／定価3,150円 ISBN978-4-7842-1406-8

平成新修古筆資料集

田中登編

最新刊第4集

中世書写古筆切の収集・整理と体系化をめざし、編者蒐集の100余点について写真と詳細な解説によって紹介。

▶第1集 A5判・260頁／定価2,730円 ISBN4-7842-1035-0

第2集 A5判・234頁／定価2,625円 ISBN4-7842-1132-2

第3集 A5判・234頁／定価2,625円 ISBN4-7842-1277-9

第4集 A5判・236頁／定価2,625円 ISBN978-4-7842-1427-3

ひ な こ じ つ ぞ う

日名子実三の世界 昭和初期彫刻の鬼才

最新刊

広田肇一著

鬼才と呼ぶにふさわしい鋭い才能で、日本近代彫刻史に確かなページを記した日名子実三の足跡を、残された作品と史料によって検証し、日名子芸術の全貌を紹介する。巻頭には大型カラー図版を配し、人体像を中心とした彫像のほか、各種のメダルや大型の記念碑など従来の彫刻の範疇を越えた多岐にわたる活動を総覧できる決定版。

▶B5判・カラー24頁・モノクロ146頁／定価2,100円

ISBN978-4-7842-1436-5



国宝「源氏物語絵巻」は、十二世紀前半、白河院（一〇五三～一二一九）・鳥羽院（一二〇三～一五六）の頃に、宮廷を中心として製作されたと考えられている現存最古の遺品であり、原作に近い時代の雰囲気をよく伝えている作品として著名である。また爛熟した王朝文化の伝統をふまえた、研ぎすまされた感性による絵画表現など、多くの「源氏絵」のなかでも、ひととき高い格調と説得力をもって見るものを魅了してくれる。

この国宝「源氏物語絵巻」のうち尾張徳川家に伝来した三巻が、明治四十四年（一九一一）同家第十九代の義親（一八八六～一九七六）によって東京帝国大学内の山上御殿で初公開された。その際に「益田本」（現五島美術館所蔵本）の摸本を持参した田中親美の存在を知り、その摸本の精巧さに感心した義親は、徳川本三巻の摸本製作を依頼、昭和十年（一九三五）に田中親美の現状（剥落）摸写が完成した。精巧な摸本制作の目的には、原本開披の機会を減少させる狙いがあった。翌年には、この絵巻を広く普及させるために、原色版印刷本、さらに岩絵具を用いた木版印刷本の製作を川面義雄に依頼、戦中戦後の困難な時代を経て、徳川本三巻分、絵十五面・詞書二十八面を昭和三十四年に完成、五島本絵四面・詞書九面を昭和三十八年に完成させた。

製作されてから九百年近い伝来の星霜のなかで、絵の具の剥落や変褪色などが生じており、当然ながら平安時代の貴人たちが見た姿とは異なっている。「製作当初の姿を想い浮かべよ、といっても一般の人には到底不可能だ」と考えた義親は、昭和三十年秋に古画の摸写に巧みな大和絵の画家で徳川美術館に学芸員として勤務していた桜井清香に、復元摸写製作を命じた。二十一代義宣

源氏物語千年紀・古典再生に向けて〈第五回〉

国宝「源氏物語絵巻」の摸写



四辻 秀紀
(徳川美術館副館長)

の指導のもと昭和三十七年に徳川本の絵十五面、翌年に五島本絵四面の復元摸写も完成させている。

平成十年（一九九八）に当時の通産省の補正予算事業の一環としておこなわれた企画『「国宝源氏物語絵巻」高精細デジタルアーカイブの試作』が契機となって、徳川美術館と五島美術館・東京文化財研究所が科学的分析調査の共同研究を実施した。摸写を目的とした調査ではなかったが、そこで得られた結果をふまえて、義親の曾孫で尾張徳川家の二十二代となった義崇がプロジェクト・リーダーとなり、あらたな摸写事業が推進されていった。その様子は「よみがえる源氏物語絵巻」としてNHKで放映され話題となった。この平成の復元摸写は、科学的分析に基づくのだからほぼ九百年前の姿に再現されたとお考えの方々も多いと思われる。しかし調査によって得られた結果は、補筆をはじめとした九百年の歴史を含めた情報であることを忘れてはならない。また剥落や変褪色によって不明となっている図様や文様・色調などは、それぞれの画家たちが原本を丹念に読み込み、有職的な知識をふまえ、納得のいくまでいろいろな試作や習作をかさねながらの完成であり、それぞれの画家たちの個性も自ずと反映されている。

『源氏物語』が著されて千年、国宝絵巻が制作されておよそ九百年、その中で本格的な研究、摸写や復元作業の歴史は百年に満たない。今回の平成の復元摸写によって、制作当時の色調や図様がどの程度まで再現できたのかの判断は難しいが、およそ九百年前の王朝人たちが見た「源氏物語絵巻」の世界に少しでも近づけたのではないだろうか。

史料探訪

34

『源氏物語団扇画帖』と 与謝野晶子の源氏詠自筆原稿ウェブ公開

伊藤鉄也

国文学研究資料館

国文学研究資料館（以下、国文研）は、東京都品川区における36年間の活動を閉じ、本年4月より立川市（緑町10-3）に施設を移して業務を再開した。折しも、『源氏物語』の千年紀と重なることとなった。

移転記念の特別展示は「源氏物語 千年のかがやき」と題し、平成20年10月4日（土）から10月31日（金）までの1ヶ月間、新装なった1階展示室を会場として開催する。詳細は、ホームページ、ポスター、チラシをご覧ください。

重要文化財（4点）と重要美術品（1点）他の展示が可能となったのは、それに対応できる展示室ができたことによる。研究成果を展示という手法で公開することで、これまで以上に積極的に取り組んでいくこととなる。

さて、今回の展示で国文研らしいものとして用意した一つは、新収資料である『源氏物語団扇画帖』の初公開である。国文研の基幹研究プロジェクトとして「『源氏物語』再生のための原典資料研究」を発足させ、2年間の研究成果を解題に盛り込んだ。また、日本郵便から今年9月に発行される特殊切手「『源氏物語』一千年紀」のシートの背景画像にも、この『源氏物語団扇画帖』が採用されている。

思文閣出版から販売されるこの展示図録に収録した図版には、研究プロジェクトの成果を受けて、『源氏物語団扇画帖』の全54枚の源氏絵に詳細な解説がついている。また、団扇絵に描かれたものが容易に確認できるように、図版には透視図を添え、加えて巻末には詳細な事物索引を付した。

『源氏物語団扇画帖』は、土佐派の手にかかる新出の源氏絵である。本団扇画帖の図様は、出光美術館蔵伝土佐光元筆『源氏物語画帖』をはじめとして、徳川美術館蔵土佐光則筆『源氏物語画帖』や和泉市久保惣記念美術館蔵『源氏物語手鑑』と近似するものが多いことを特徴とする。そこで参考図版には、図様が近似するこれら3館の源氏絵を可能な限り添えた。

特に、出光本画帖と国文研本団扇絵との図様の近さは、特筆すべきものがある。貴重な出光本画帖の中から、23点もの多くの源氏絵を参考資料として掲載することは、新出資料である国文研本を含めた源氏絵の図様研究等において、今後の進展が大いに期待できる。中でも、玉鬘十帖のほとんどの巻が両者で一致する図様を持つのは、出光本と国文研本の間を関係を考える上で重要なことである。今後の研究課題としても、おもしろい問題提起となろう。源氏絵に対して、多くの方々に改めて興味を持ってもらえるようになるはずである。

このように、特別展「源氏物語 千年のかがやき」の図録は、多方面から利用してもらえるよう、資料性に富んだ構成となっている。

もう一つの国文学研究資料館らしい展示として、与謝野晶子の『新新詠源氏物語』の自筆原稿（鞍馬寺蔵）がある。これは偶然に残ったものだが、与謝野晶子の執筆活動の一端が伺える貴重な資料である。この自筆原稿は、「乙女」19枚、「玉鬘」49枚、「東屋」1枚が鞍馬寺に保管されている。

神野藤昭夫先生（跡見学園女子大学）の調査に協力する形で始まった原本調査において、万年筆で書かれた原稿の文字が徐々に薄くなっていくことへの相談を、鞍馬寺側から受けた。早速、国文学研究資料館で検討し、原本に記された文字の消失を防ぐために画像データベース化することで、原本を一時的に保護することになった。

晶子自筆の源氏詠原稿の画像については、特別展「源氏物語 千年のかがやき」に合わせて、国文研のウェブサイトから公開することになっている。原稿用紙の升目を大きくはみ出すほどの



『源氏物語団扇画帖』(「若紫」)

勢いで書き綴られる、与謝野晶子のほとばしる源氏語りを、ぜひご自宅のモニタでもご覧いただきたい。

国文研は、国内のみならず、世界各地に散在する日本の古典籍の原本を調査し、そして写真やデジタルデータで収集する事業を、開館以来進めている。江戸時代までの古典文学作品だけではなく、近代の文学をも対象とした情報と資料を、総合的に調査収集している研究機関である。この機会に、さまざまな収集資料をご覧いただければ幸いである。

この秋には、8月30日から11月3日まで開催される横浜美術館の「特別展 源氏物語の1000年——あこがれの王朝ロマン——」と、9月3日から11月3日まで開催される宇治市源氏物語ミュージアムの「源氏物語千年紀特別展 写し伝える美——陽明文庫の源氏物語——」がある。国文研の特別展は、ちょうどこの横浜美術館と宇治市源氏物語ミュージアムの開催期間後半の10月に重なっている。

横浜と宇治とは趣を異にした国文研の源氏展を、一人でも多くの方々にご覧いただけることを願っている。

(14頁に図書案内)

—MEMO—

立川移転記念特別展 源氏物語 千年のかがやき

会 期 平成20年10月4日(土)～10月31日(金)
休館(展示替え) 10月17日(金) [土曜日曜祝日も開館]

この千年間、『源氏物語』がどのような形で読み継がれて来たのかを、画帖・絵巻・写本・注釈書・翻訳書などを通してご覧顶きます

(主な展示資料) 重要文化財 大島本『源氏物語』(古代学協会蔵)
重要文化財 陽明本『源氏物語』(陽明文庫蔵)
重要文化財 中山本『源氏物語』(国立歴史民俗博物館蔵)
与謝野晶子訳源氏物語自筆原稿(鞍馬寺蔵)

国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3

URL <http://www.nijl.ac.jp/>

TEL 050-5533-2900



測量調査の現場：たつの市龍子三ツ塚

大手前大学史学研究所オーブン・リサーチ・センター 「地域文化財情報集積による 歴史文化遺産の多角的学術研究と地域社会への還元」

研究所職員

魚津知克

五月の連休まえ、兵庫県姫路市にある書写山円教寺の坊院跡の調査を研究員らとともに実施した。まばゆいばかりの新緑にかたずをのんだが、さらにびっくりしたのは、国際色ゆたかな参拝客であった。西国二十七番札所でありしことから、連休の人の多さは予想していたのであるが、行き帰りのロープウェイでは英語や中国語がとびかう。世界遺産姫路城の近くとはいえ、地域の歴史文化遺産が海外にもひらかれているのを実感した。

その後すぐに、兵庫県東南部、猪名川町多田銀銅山の測量調査をおこなった。歴史的景観保全の可能性もみすえながら、広大な遺跡群全体をランドスケープ専門の客員研究員とともにGIS化をすすめている。主要な遺構は、筆者が中心となつて、考古学の手法で詳細な測量をおこなった。ここでも、中高年のハイキング客がぞくぞくと訪れるのに驚いた。高齢化に負けない健康づくりと歴史文化遺産の活用とは

一体のものになりうる可能性を、元気なおっちゃん、おばちゃんたちの弾んだ声が示してくれる。

大手前大学史学研究所において、文部科学省の指定を受けたオーブン・リサーチ・センター整備事業（平成一九年度～二二年度）として、地域の歴史文化遺産に対し、情報化を中心としたさまざまな角度から研究をすすめている。

地域の歴史文化遺産に実際にふれ

るたびに感じるのは、地域社会そのものがおかれている大きな課題である。遺跡の分布調査のために訪れた淡路島では、長い年月をかけて山奥まで築かれた棚田は過疎化により放棄され、谷をおりた所は阪神・淡路大震災で大きくえぐられていた。日本海側、但馬地域の多くの歴史文化遺産も、過疎化・高齢化した限界集落の中であえいでいる。しかしまた一方で、地域の歴史文化遺産の活用には、さきに示したような大きな可能性も潜在している。日本海から瀬戸内海にひろがる兵庫県地域は、じつに多様な地理的特性をもっている。歴史的にも、畿内の外縁として、また海上交通の玄関口として、さまざまな動きの舞台となってきた。歴史資料の宝庫であり、調査フィールドにも事欠かない。このような「地の利」をいかしつつ、大手前大学史学研究所のプロジェクトは、歴史学・考古学・美術史学・文化財科学を横断する調査研究をすすめている。

若手研究者が主体となつて研究プロジェクトをすすめてきたのも、大手前大学史学研究所オーブン・リサーチ・センターの大きな特徴である。ポストドクター研究員にとつて、博士取得後も学問分野横断的に関心の幅を広げることができる環境がつくられている。この夏も、兵庫県西部、たつの市にある古墳群の発掘を、地域の人々に見守られながらすすめている。

これまで、その体制作りに奔走した筆者も、そろそろ若手研究者とはいえない年齢になってきた。これまでの調査フィールドでふれた地域の歴史文化遺産の「息遣い」を、最大限いかせるような調査研究を筆者なりにまとめていきたいと思っている。

日本医史学会関西支部(杏林温故会)編

完全予約出版(100部限定)

11月刊行予定

10月20日予約締切

醫譚



昭和13年(創刊号)～昭和19年(第17号) 合本全3巻

昭和12年4月、エルメレンスの記念碑が中之島公園より、当時の大阪帝大医学部の校庭に移転された折りに、長崎に次いで西洋医学発祥の地大阪に、医学史研究の会、杏林温故会創立が相談された。その中心は億川攝三、大矢全節、中野操、阿知波五郎の先生方であった。その創立には日本医学史の先駆者富士川游先生の強力な応援があったと聞く。

その機関誌『醫譚』は昭和13年2月に創刊、昭和19年6月まで17号を数え、戦後の昭和27年に復刊、今日にいたる。

今回、入手困難で、待望されている医学史、科学史研究の貴重な古典として、昭和19年刊行の17号までを限定予約出版いたします。

▶ A5判・全3巻セット／定価25,200円

ISBN978-4-7842-1424-2

江戸期文化人の死因【最新刊】

杉浦守邦著

歴史上の人物が、どのような病気にかかり、いかに対処しながら一生を終えたのか。日記、書簡、肖像画などの資料から22名の死因を読み解き、「死因」という観点から、江戸期に活躍した文化人たちの生活を浮き彫りにする意欲作。

すぎうら・もりくに……山形大学名誉教授(教育学部)・京都蘇生会総合病院名誉院長・日本医史学会会員



▶ A5判・340頁／定価2,625円 ISBN978-4-7842-1422-8

洪庵・適塾の研究

▶ A5判・540頁／定価12,600円

ISBN4-7842-0766-X

続 洪庵・適塾の研究

▶ A5判・726頁／定価9,975円

ISBN978-4-7842-1388-7

梅溪昇著

適塾研究第一人者による研究成果。折りに触れて書きためたものや雑誌『適塾』で紹介してきた新史料も織りまぜ、洪庵と適塾をめぐる縦横にとりくんだ2冊。



▶ていーたいむ余録◀

政治の中心が関東にあった鎌倉時代の研究は長く京都では不振だったというお話、東国出身のわたしにとっては興味深く、意外でもありました。

東国人にとって鎌倉は身近な存在。遠足の定番コースでもあり、鳩サプレーを知らない子どもはまずいないでしょう。もちろん大仏といえば奈良ではなく鎌倉です。思いがけず、自分に流れる東国の血を再認識しました。(M)

▶表紙図版◀

吉田初三郎画「昭和三年大正記念京都大博覧会」
鳥瞰図屏絵(1928年、大塚隆氏蔵・京都市歴史資料館協力) (『近代京都研究』より)

▶営業部より—東京国際ブックフェア—◀

7月10日～13日、東京国際ブックフェアに弊社も出店いたしました。ご来場していただいたお客様誠にありがとうございました。多くの来場者の方、並びに業界関係者とお会いでき、大変刺激を受けました。

他社のブースを拝見しましたが、どの出版社もいかにお客様へアピールできるかに重点をしぼり、特に同じく京都から参加している出版社は「京都市色」を全面に出しており大変印象に残りました。後日、業界関係者とお会いした時の会話で、東京は京都へのあこがれがある、と聞きました。弊社も京都の出版社という面を意識しつつ、より広くお客様へ刊行図書をお届けしたいと思います。(I)

思文閣大文化祭 11月1日(土)～3日(祝)

思文閣会館 (京都市左京区田中関田町2-7 京阪出町柳駅徒歩10分、市バス百万遍バス停すぐ)

□古書・和本の展示即売

□思文閣出版刊行図書全点の展示販売(割引特典あり)

□思文閣美術館「スコブル滑稽! 宮武外骨」展 (11/1～12/7開催 大文化祭期間中のみ入場無料)

京都美術倶楽部 (京都市東山区新門前通東大路西入梅本町263 市バス知恩院前バス停すぐ)

□書画・工芸品・古典籍を多数出品する入礼会「大交換会」・「先賢諸聖のことば」展

思文閣本社 (京都市東山区古門前通大和大路東入元町355 京阪三条駅徒歩15分、市バス知恩院前バス停15分)

□書画・工芸品の展示販売

書評・紹介一覧 6～8月掲載分		※(評)…書評 (紹)…紹介 (記)…記事 [敬称略]
瀬戸内海地域社会と織田権力 (評)『日本史研究』551号(西尾和美)	明治維新史という冒険 (評)京都民報(町田明広)	
近世社会と百姓成立 (評)『日本歴史』723号(山本英二)	石山寺の信仰と歴史 (紹)京都新聞 7/14 (紹)中外日報 7/29	
棋関時代文化史研究 (評)『洛北史学』2008年10号(豊田早苗)	公家と武家Ⅳ (紹)『東方』330号	
中世・近世の村と地域社会 (評)『日本歴史』723号(酒井紀美)	善導大師と法然上人 (紹)仏教タイムス 7月3-10合併号 (紹)『在家佛教』2008年9月号	
近世寺社参詣の研究 (評)『史学雑誌』117編6号(朴澤直秀)	阪神文化論 (評)週刊読書人 8/22(河内厚郎)	
森有礼における国民的主体の創出 (評)『関西教育学会紀要』8号(沖田行司)	経簡が語る中世の世界 (記)朝日新聞 6/21	
南都寺院文書の世界 (評)『日本史研究』551号(根ヶ山泰史)	一千年目の源氏物語 (紹)京都新聞 6/22 (紹)読売新聞 7/20	
京都源氏物語地図 (紹)『J-Bstyle』'08 6-7号 (紹)読売新聞夕刊 7/17	竹の経済史 (紹)日刊木材新聞 8/8	
近代茶道の歴史社会学 (評)『茶の湯文化学』15号(廣田吉崇)		
近世吉野林業史 (評)『地方史研究』58巻3号(井上正行) (記)奈良新聞 7/18		

6月から8月にかけて刊行した継続図書

シリーズ名	配本数	巻数	巻タイトル	ISBN978-4-7842	TRC	NPL	OPL	定価	発行月
金 鯨 叢 書	34	34		1395-5 C3370	08030892	0965420	7023377	9,975	6
シ リ ーズ 古 典 再 生	1	1	一千年目の源氏物語	1408-2 C1091	08029660	0965203	7004922	1,680	6
吉 田 清 成 関 係 文 書	4	4	書簡篇4	1428-0 C3021	08042448	0969092	7205214	15,750	7
新 島 襄 を 語 る	5	5	元祖リベラリスト	1429-7 C1016	08040909	0968384	7158892	1,995	7

6月から8月にかけて刊行した図書

図 書 名	著 者 名	ISBN978-4-7842	TRC	NPL	OPL	定価	発行月
三 高 の 見 果 て ん 夢	巖平	1399-3 C3021	08032109	0965639	7023302	7,875	6
竹 の 経 済 史	岩井吉彌	1391-7 C3061	08034286	0966313	7073315	4,725	6
大 地 へ の ま な ざ し	金田章裕	1405-1 C3025	08037755	0967400	7110000	4,725	6
室町・戦国期研究を読みなおす(2刷)	中世後期研究会編	1371-9 C3021	07053756	0950507	08356776	4,830	7
室町期東国社会と寺社造営	小森正明	1421-1 C3021	08041210	0969094	7205222	7,350	7
ありがとう、あなたへ(6刷)	阿南慈子	1090-9 C0095	01052975	0166939	01810688	1,260	7
俳句とジャポニスム	太田靖子	1404-4 C3090	08042444	0969226	7205206	6,090	7
増補・改訂 南北朝期公武関係史の研究	森茂晁	1416-7 C3021	08042446	0969420	09292897	9,450	7
江戸期文化人の死因	杉浦守邦	1422-8 C3021	08042442	0969335	09292905	2,625	8
蓬 萊 山 と 扶 桑 樹	岡本健一	1400-6 C3021	08044455		09308461	5,775	8

(表示価格は税5%込)

株式会社思文閣出版

〒606-8203 京都市左京区田中関田町2-7 ☎075-751-1781(代) FAX.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp/ e-mail: pub@shibunkaku.co.jp